

---

# 友情と好敵手

神童サーガ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

友情と好敵手

### 【Nコード】

N4412F

### 【作者名】

神童サーガ

### 【あらすじ】

人斬り抜刀斎（女）と新選組（男）の友情？オリキャラです。

(前書き)

戦うシーンがあります

初めまして、私は緋桜<sup>ひおう</sup> 灯<sup>あかり</sup>

職業は、人斬り抜刀斎。

裏での呼び方は、黒死蝶といいます。

黒死蝶の由来は、黒い髪、黒い瞳、黒い着物、黒いキツネのお面を着け、華麗に舞うからと言われているけど、詳しくは分かりません。ついでに今は、明治時代です。

「灯!」

今日も仕事を終えて帰ろうとしたとき、背後から聞き慣れた声でした。

「颯太……」

彼の名前は、柊<sup>ひいらぎ</sup> 颯太<sup>そつた</sup>

あの有名な新選組の平隊員なのだ。

二人は、敵同士。だけど何よりも硬い絆があった。

「今は夜だから……御用だ」

「だね……あと、何刻かで友人なんだけどね」

昼間は一緒に団子を食べる親友同士だが、今は夜なので、敵同士だ。

皮肉な運命だが、変える事は不可能。

「さつさと捕まえさせて貰うよ？」

「捕まったら一緒に飯食えねーし」

灯の言葉に、くっ、と顔を歪ませる颯太。

「友人だからこそ・・・本気で戦える」

「っ・・・友人だからこそ・・・俺が捕まえる」

二人の緊張のピークを達した時、キーンと鉄の音が、真夜中の路地裏に響いた。

「っ・・・」

「負けるわけには、いかないんだ・・・幕府を変えるためにも」

「抜刀斎のいる意味が無いんだぞー!!」

刀の柄に、力を込める。ギシツと音を立てる。

「意味が無くても・・・私は、この刀を捨てることは出来ない!!」

「なぜ幸せな暮らしを選ばない!? 一生キミは、裏で生き続けなきゃいけないんだ!!」

例え、心が揺らいでも力を緩めない。

「何を言われても、私が抜刀斎として生きてる限り、宿命からは逃れられない!!」

「ずっと一人で・・・自分の手を血で染めても・・・苦しんでいくのか?」

何も言い返すことが出来なかった。

「自由に生きる人生は・・・嫌なのか?」

「颯太だって・・・新選組に縛られて・・・裏で偉い奴が悪いことして・・・誰かが止めなきゃダメなんだよ」

ボソツと言った言葉に、颯太は呆然とした。

灯は、颯太の刀を振り払って、颯太のお腹を自分の右足で蹴った。  
颯太は、グッと後ろに振り返った。  
何とか踏ん張って灯を見たが、いなくなってた。

「灯……」

ただ、いなくなった彼女の後を見つめるしか出来なかった。

「また……血で濡れた……」

桶に水を張って、自分の顔を見る灯。  
悔しげに眉を寄せた。どうしようも無い出来事なのに。

「……新たな時代のためには、仕方が無い……でも……颯太はカタキなのに……仲間達の」

新選組と人斬り抜刀斎は、所詮相容れぬ中なのだ。

「久し振りに……団子屋のオッチャンに会いに行こうか」

先ほどとは、打って変わって女の子らしい着物を着てる。  
そして、町を探索してる。  
目星の店に入る。

「灯ちゃん！久し振りだな」

「すみません。最近来てなくて・・・」

「てつきり病気かと思ったよ」

席に勝手に座った。オジサンは、いつも通りに団子と酒を持って来る。

酒と甘い物。変に思われるが、いつもの灯のスタイルなのだ。

「・・・懐かしいな」

お猪口に並々に注がれた酒を、グイッと呑む。

「相変わらず自棄酒か？」

「違う・・・久し振りだからだ」

背後から聞こえる声に驚きはせずに、普通に話してる。

「オツチャン・・・酒!!」

「颯太だって酒じゃんか」

灯の目の前に座ったのは、颯太だった。  
オジサンは、酒を持って来た。

「ここは、酒呑む場所じゃねーんだ」

「だって置いてんじゃん」

「嬢ちゃんが呑むからだ」

他にも呑む奴がいるじゃん、と灯が言うと、オジサンは自分の頭を叩いて、こりゃ一本取られた、と言った。

「乾杯」

「ん・・・」

オジサンがいなくなったのを見てから、二人は、猪口を合わせた。

「最近どうだ？」

「なにが？」

二人は、昼間の時は、絶対に裏の話はしない。  
人目に付くから。

「颯太だつて、見合いあつたんだろ？」

「……ああ、相手の父親が黒死蝶に殺られた」

「!？」

微かに表情を変えた灯。だけど、酒を呑む手は止めなかった。

「そうか……黒死蝶に殺られるのは、悪い事してる奴等だしね」

「うん……調べたら賄賂だつて」

賄賂<sup>わいろ</sup>か……と言った。

灯は、詳しくは聞いて無かったらしい。

「取り止め？」

「・・・うん。相手も行方を眩ましたようだし。居辛いもんね」

ハァーと溜め息をしている颯太に、気になったことを聞いた。

「まさか、気に入ってたとか？」

「いや・・・何が理由でも殺しはダメだよなって・・・」

颯太の言葉に詰まる灯。目を閉じて考え事をしてる。

「俺としては、止めて欲しいけど」

「・・・そうね」

ホントは止めたいけど、気持ちは、そう簡単では無い。

「俺は、灯と友人でいられるのは嬉しいけど・・・いつか、俺の手で・・・っ!？」

段々と、夜の話をしだした颯太に、叫んで名前を呼んだ。  
颯太は、ハッとして口を閉じた。

「・・・例え何があっても、私のいるべき場所はココや颯太なんだ」

「・・・うん」

「それに人斬りは、止めても死んでも変わらないよ」

変える事の出来ないなら、自分は、これからどうすれば良いんだろっ？

「どんな灯でも、俺は受け止めるから」

「・・・颯太」

表は、友情ゴツコ。

裏は、人斬りゴツコ。

どうしたら、この宴は終わるのだろっ。この愛憎劇は終わるのだろっ。友情の目処は付かないのか。

いつか、親友が捕獲者になってしまう日まで・・・。

（後書き）

書いてで、少し「るろうに剣心」を思い出しました。また読み直そうかな

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4412f/>

---

友情と好敵手

2010年10月28日03時04分発行